橘(たちばな)さんは嗅(か)ぐわしい
③
【単行本版】
Presented By
肉丸

contents

第11話 003

第12話 033

第13話 065

第14話 095

第15話 127

第11話

悪いな
こんな時間に
呼び出して
飲め
それであの…
渡したい物
っていうのは？
いえっ
それは全然…
いただきます
そうだな
時間も遅いし
さっさと
渡しとくか
ガサ
ゴソ
ほら、
受け取れ
ポス
!!

これは…
タンクトップ?
ああ、しかも
千里の匂い付きのな
ドキッ
えっ!持って来て大丈夫なんですか!?
安心しろ盗品じゃない
お前が先日この匂いを「良い!」と言ってたし
男性恐怖症（例のヤツ）解決の手助けになればと思ってな
お次女さん…

まさか以前探し求めていた
その日から彼女の
パンッ
却下
パァ
藤村君の私物がこんな形で手に入るとは…
すみません先日も助けていただいたのに…
ん？全然いいぞお前は同志だし
困っている奴がいたら
助けるのは当然だろう？
でも…せめて何かお礼を…
お礼かぁ特に…
あ
だから気にすんなお次女さん…
ジーン…

そう言えば千里と私のヒストリーを
まだ最後まで聴かせていなかったな
ドサッ
それじゃ私はこれで
クルッ
ガッ
まあ待て
時間はたっぷりあるんだ思う存分聴いていけ
24h営業
酒
いやっあのっ…
翌朝
ふうっ

フキ
フキ
あの後2時間も聴かされるとは…
チラ…
でも――
これを戴けたんだから
ピラッ
本当に感謝しかないな…
ドキ
ドキ

ドキ
よ、よしっ
ドキ
スッ…
グイッ
もぞ
もぞ
ふうっ
グッ

ドキ ドキ
おお…
匂いで興奮しちゃうかと思ったけど…
もぞっ
むしろ安心感があるな…藤村君に包まれているような…
これなら
行けそうな気がする!

とりあえず試しに
朝練だけ
ノーパンタンクトップで
行ってみるかー
ゴソ
ガサ
薫ー!
遅刻するわよ!
ええ!?
もうそんな時間!?
忘れ物は無い?
うん!大丈夫!
はっ!

ふぅ…
いい!!
匂いによる安心感と
ノーパンの緊張感
によって
今までに無く
集中できている…
これがゾーンって
やつなのか…?

薫
先生！
今日は見違えるような動きじゃないか
はい！
何かを掴んだ気がします…
グッ
前よりももっと強くなれるかも…！
流石だなお前ならできるさ
はい！
ふふっ

ルン
ルン
こんなにも効果が出るとは…挑戦してよかった！
ま、汗もかいてないしタンクトップはこのままでいいか
ガサ
えーと…パンツは…
あれ？
無い…？
何か無いんですか？
えっいや…
よければ探すのお手伝いしますよ
ううん！全然大した物じゃ無いから…
そうですか？ならいいですけど…

本当に困ってたら言ってくださいね！
フリ
フリ
う、うん
は…
フリ
はは…
まあ…
大人しくしてれば大丈夫か…
ガタ
ガタ
――っ!?

今日は昼から
全校集会で
女子剣道部の目標を
発表する日だったー!!
それでは
各部部長は
ステージ上へ
!!
どどどど
どうしよう!?
もぞっ
もぞっ
何かいい案は—

ビクッ
橘さん
行かないの？
いきます！
いきますっ！
もし…
全校生徒の前で
こんなもの
晒したら…
お…
ドクン
ドクン
終わる…！

と、とりあえず
もぞ
もぞ
細心の――
注意を
ひょこ
ひょこ
払いながっ
わ

ファサッ
見られ──
てない!!
あ、危なかった…
次、女子剣道部部長
でもここさえ乗り切れば──
ドキ
ドキ
は、はい

う…
ダメだ…
ドキ
ドキ
我々女子剣道部は
緊張して
もぞ
もぞ
ここ2年の大会で
汗が──!
着実に成績を伸ばして来て──

いっ!?
ビク
す…すみません
こ、個人としても
ガク
ガク
団体としてもっ

あー
朝練の時より

まずい…
よ、より一層の熱意を持ち
変な気分になって来た…
ギュッ
練習にっ励んでいます
もし私がノーパンだと全員が気づいていて…
みんな私の裸を
想像していたら…

ゾクッ
ってゾクゾクッ
じゃない!
変態か私は!!
何かやらかす前に
早く切り上げて
しまおう
もぞっ
もぞっ
で、
ですので皆さん
あいつ汗
スゴイな…
女子剣道部に
暖かい声援と
拍手を――

シャッ
窓開けておいてやるか
女子剣道部からは以上です
よう…何とかのりきった…
ガラッ
え

だ、誰も見てないよね…!?
次は男子剣道部――
はい
ドキ
ドキ

スイッ
翌日
昼休憩
ハア‥
ふう…

昨日は危なかったけど
何もなくてよかった…
一時はどうなることかと思ったけど…
結局 夜練もあのままやって絶好調だったし
今後へ向けて光が見えて来た感じだ
更に特訓を強化すれば――
橘さん――
ぐっ
はい？
くるっ

松岡君が用事があるって
やあ、突然ごめんね
松岡君…？男子剣道部部長の…？
ほとんど話したことなかったけど…
できれば――
ヤな予感――

橘さん？
うひゃい!?
ここじゃ人も多いし
校舎裏で話さないかい？
う、うん わかった
さて…
ニヤリ…
単刀直入に聞こうか…

橘さん
ズズ…
どうして昨日——
全校[redacted]会で
下着をつけていなかったんだい？

第12話
どうして昨日全校集会で
下着を着けていなかったんだい？
!!
やっぱり見られてたー!?
さ、さあ何のこと…？見間違いじゃない…？
じり…
は、話はこれだけかな？じゃあ私はもう帰…
…

少し
例え話をしようか
とある公立高校に
剣道部があったとする
何の変哲も無い
ただの弱小校だ
全国なんて夢のまた夢
・・・
一回戦突破がやっとと言ったところか

しかし
ス…
そんな部に
救世主が現れる
彼女が入ってきてその部は変わった！
みるみる内に部は強くなり全国でも一目おかれる程に！
そして
彼女が三年になった時、とうとう全国優勝を狙える位置まで来た
彼女を慕って実力者たちが大勢部に入ってきたからね
当然 周囲は黙っていない
学校や保護者はおろか町中が注目をしている…
そんな中

救世主が実は下着も履いてない様な変態だという事実が知られたら
その部活は一体どうなってしまうんだろうね？
ギッ
ビクッ
おっと！怖い顔しないでよ…あくまで例え話さ
僕はアレの理由が知りたいだけさ
チラ…
事情があるなら力になれるかもしれないしね…？

隠し通すのは
無理か…
わかった
全部話すよ
でも
他の人には…
もちろん！
二人だけの
秘密にするよ
なるほど
男性恐怖症ね…
その克服の為に
特訓を…
そ、そうなんだ

だ、だから下着の件もその一環で
…
荒療治というか度胸をつける為というか…
…それならもっといい方法があるよ
ほ、ほんと？一体どんな…
男性に直接触れられることさ
！

まだ男と触れ合ったことは無いんだろう？
僕で良ければいくらでも練習相手になってあげるよ
いやっ…でも松岡君に迷惑だし
あせっ
おいおい寂しいこと言うなよ
同じ剣道部のよしみじゃないか
できるだけ力になってあげたいのさ…それに…

ノーパンと男性恐怖症
僕らは大きな秘密を2つも共有しあった仲じゃないか
部活後であれば付き合えるから
君の連絡先を教えてくれるかな?
都合の合う限りできるだけ多く会おうじゃないか
いやぁ学園のスターである君の役に立てるなんて光栄に思うよ
これから宜しくね

カオル
うーん…
最近 先輩と特訓 してないけど 大丈夫かな
もう時間も あんまりないのに…
一応 聞いてみるか…

やっぱりあの時のせいで
誘いにくくなったのかな
僕だっていつもギリギリなんです！
ガラッ
今後は絶対に事前に連絡をくださいね
いやでも言わない訳にも…
うーん…
お、返信が
え…
近頃特訓出来てませんが大丈夫ですか？
最近調子が良いから大丈夫！心配ありがとう！
調子がいい…？
何か新しい方法でも見つけたのかな？
でも前会った時にはそんなこと一言も…

千里 教室移動だけど行かないの？
何か違和感があるけど…
ああ、すぐ行くよ
ぐいっ
よし！
集合！
今日はここまでにしよう
各自 自主練は怠らないように

松岡部長！
どうした藤村 何か用か
はい、部の練習についてなんですが…
ここ一週間程終了時間が早過ぎませんか？
何？
部の皆からも不安の声が上がっています
大会も近いですし
寧ろ練習時間を伸ばすべきじゃ…

なんだ藤村
お前は終わった後
自主練しないのか?
いえっ!
それはもちろん
していますが…
なら
いいじゃないか
部長には
色々とやることが
あるんだよ
お前たちと
違って…な
はあ…
はあ
はあ
はあ

やれやれ…
またかい
う…
ごめん
次は…

そう言って この一週間
手を触れるくらいしか できていないじゃないか
……これは
少し荒療治が 必要かな
え… 荒療治って…
ぬっ

こういう事さ
ひっ
おっと
ガバッ

大声は出さないでくれよ
誰かに誤解されたらいけないからね
これはあくまで
特訓の一環なんだから

んんっ
ビクッ
この人の匂い

!!
やっ！
おっと
その反応……

じり
じり
僕は君の為を思ってやってるのに
あっ!?
立場分かってる?

お前の三年間
すぐ終わらせることもできるんだよ？
・・・
なんてね
君が暴れるもんだから
ついいじわる言っちゃったよ
でもほんと
あ、
少し大人しくしてろよ？

ビクッ
うん、程よく引き締まったいい体だ…
こっちはどうかな!?

ビクッ
グイ
いやっ！
もう一度言わせる気かい？
…！
よし、いい子だ
さて

随分と体が反応してる様だけど
はぁ
はぁ
もしかして気持ちよくなってきた?
そっ
そんな訳…ない!

そうかい？
ひっ!?
グイッ
どれ…
フル
フル
まだ反抗的な顔だな…
グッ
なら——

もっと強い刺激を——
ギュムッ
!!
いやっ!!
ドンッ

このっ…！
まあいいさ
どうせまだまだ時間はあるんだ
明日もまた一緒に頑張ろうね
ポン
カオル
ガクッ

うううう
いやだよぉ
こんなことがあと何日続くの…？
足もお尻も
一杯触られちゃった…
うう…藤村君…
はい

え・・・
藤村君!? どうしてここに…
お久しぶりです
大きな声が聞こえたので何事かと思って…
何かあったんですか？
…藤村君
はい？

グッ
うわっ!?
ドサッ
いてて…
特訓…
え…
今すぐ

今すぐ私と特訓して欲しい
おねがい…
え？

今すぐ私と特訓して欲しい
おねがい…
第13話
え…
と、突然どうしたんですか？確か調子いいから大丈夫って…

!!
藤村君…
スル
ま、待ってください！ちゃんと説明を…やっぱり何かあったんですか!?
…っ
何も無い…
訳じゃ無いけど…
プチッ

今は
聞かないで…
はぁ
はぁ

だめ…
かな？
ハァ
ハァ
…！
わかりました
正直 納得はしてませんが…
！
ありがとう…
じゃじゃあ…

ん…
きて…
ス
君の好きな所を
好きにして…
…

ビクッ
あっ
ギュウ。。
ああ…
この匂い
やっぱり好き…
キュッ

ふ、藤村君
もっと強く…
…
あうっ!?
──っ

ビクッ
だ、大丈夫ですか？
うん…
大丈夫だから
もっと…
！

えっと
い、いいんですか…？
うん…君になら触って欲しい
…!!
あっ
くりっ
あっ
あっ
くりっ
くりっ

ビクッ
ふっっ
んぁ
ビクッ
あっ……
ビクッ
んっっ
はぁ
あっっ
ビクッ

はあっ
…
あ…
?

藤村君の…
はぁ
はぁ
大っきくなってる
いっ!?
すっすみません!
生理現象で…
すぐ治めます!
あっううん
いいの…
ちょっと待っててね

！
んっ
スルッ
ぬぎ…
ん…
んしょ
藤村君…
とろ…

見て…?
はぁ
はぁ
グ

んっ!!
私のも…
こんなになっちゃってる
だからね…
もっと触って…？

私でこうなってくれたなら
すっごく嬉しいから…
ね…？
…

あっ
ビクッ
あっ♡
んっ♡
あ♡
ビクッ
はぁ♡

あっ

うあっ！
せ、先輩！ちょっと待ってください！
これ以上は
できなく…
いいよ
ん

もう…
しちゃおっか
はぁ
はぁ
最後まで
どうせなら
初めては
君が…
ダメです!!

え～と そんなにイヤだったかな～
嫌です
こんななし崩しみたいな形でするのは嫌です
!
先輩との関係は大切にしたいと思っています
だからます 何があったのかちゃんと話してください
…っ

…やっぱり
君は優しいな
初めての
君でよかった
でもこの人に
……!
…
わかりました

話せる時が来たら
話してください
ス…
それまで
特訓はやめて
おきましょう
失礼します
あ…
…

一週間後
千里ー
最近ずっと調子悪そうだけど大丈夫なのー？
いやあ…
大丈夫では無いかなぁ
ははは
もー…
はい！回れ右！
えっ な、なんだよ
くるっ
もう午後からは保健室で休んでなさーい！
いやっ でも…
口答えするなー！

保健室
全く
空のやつ強引に…
ちゃんと休まなきゃダメだかんね!!
別に体調は悪く無いんだけどな
はーあ…
結局何が正解なのか
先輩に何があったのか
あの時先輩を受け入れていたら…
自分はどうしたかったのか…

考えれば考える程訳が…
ん
あれは──
松岡部長と
…先輩!?
こんな時間に2人で何を…
そもそもあの2人って話せる様な仲だっけ…

校舎裏
あっ!?
ふふふ
心配したんだよ?一週間も連絡が取れなくなって…
あまりに待たすから君のあの件をつい言いふらしてしまおうかと思っていたんだが…
まさか君のほうから懇願してくるとはね…!
わ、私は
フル
フル
女子剣道部の部長だから…

みんなの期待を
裏切る訳にはいかない！
もう時間が無いんだ！何としてでも本番までに
恐怖症を克服しないといけない！
だから…
ピッ
はあ…
御託はいいよ
…っ

結局君も
なっ!?
ビクッ
もみっ
僕とこういう事がしたくて堪らなかったんだろ?
ちっ違っ!!
ぐぐ…
本当に私は克服の為に――
脱げ
え…

時間が無いんだろう？
さっさと脱げ

第14話
時間が無いんだろう?
脱げ
な・・・
わ、私はそんな事をするつもりで来た訳じゃ・・・
第一こんな昼間から・・・誰かに見られでもしたら・・・
ほう?

それは夜なら問題ないというお誘いと受け取って良いのかな？
ちっ
ちがっ…
ククク…冗談だよ
ただまあ
途中で邪魔に入られたくないというのは僕も同意見だ
ついてこい
ぐいっ
あっ
さあ
ザッ

入れ
この計器室の裏は穴場でね
生徒はおろか教師も滅多に近づく事は無い…
いわゆる
そういう事をするのに絶好の場所なのさ
…!

まあそんな訳で
人に見られる心配は無くなった
ガシャン
さあ
わざわざ場所まで用意してあげたんだ
脱ぐんだ
断る理由が無いだろう？
で、でも…
はあ…

こんな事もできない様じゃ恐怖症の克服なんて夢のまた夢だよ？
う…
それとも…
!?
ニヤッ
もっと沢山の人達に見られるのがお好みかな？
もちろん…
僕はあまりお勧めしないが…
君が望むなら喜んで協力するよ？
ニヤ
ニヤ

・・・
わ、わかった
脱ぐから…
それはやめて…
ギュッ
ふ…
いい子だ
それじゃあじっくり
見ててあげよう
ガシャ
まずは
チラッ
下からだ
…っ

…
ス…
プチッ
う…
どうした？早く
…
スル…
ん…

こ…
これでいい…?
ス…
まだだ
ゴク…
自分でシャツを捲り上げろ
…っ!
グ…

フル
フル
くっ・・・
素晴らしい…！
あの橘 薫が
俺に平伏し
痴態を晒している！

一年生の時から
橘 薫はすでに
学園のスターだった
何も持たない自分に
とってそれは
とても妬ましく
ギリッ
同時にとても
眩しかった
そして
気づけばいつも
彼女の姿を
目で追っていた
そんな羨望と憧れの
感情を抱きながら
日々を過ごしていくうち
俺の中でとある
思いが日に日に
大きくなっていった

「橘薫をめちゃくちゃにしてやりたい」
あっ
頭の中では何度も
何度も
汚してやった
そして今…
びくっ
びく

その思いを実現する時が来たのだ…！
よし…それじゃあ次は
上だ
心ゆくまでじっくり楽しんでやる…！
手で隠したりはしないように
うう…藤村君…
ポッ

ス…
プチ
ズルッ
プチッ
おお…

よし…
ファサ…

それじゃあ次の
避けられない
刺激を与えて

ビクッ
う…
ビクッ
うっ…
もみっ
もみっ
特訓は厳しくないと意味がないからね
君の辛そうな顔を見るのは僕も辛いが…
心を鬼にして協力してあげよう
ぐにゅっ
ん…
もみゅっ
んんん…
フル
フル

だからさ…
ハァ
ハァ
僕は君の為を思ってやっているんだよ？
そう睨まないでおくれよ
ハァ
ハァ
ハァ
ギ
！
そっちがその気なら

こちらも少々
乱暴に行かせてもらう
サァー…
いやっ!!
ガッ
おっと

そんな格好でどこに行くつもりだい？
誰かに見つかったら退学はむろか
下手したら二度と表を歩けなくなるよっ？
フル
フル
つまりね

もう詰んでいるんだよ
君は
わかっただろう?
もう諦めてさ…
もみゅ
僕と楽しんでしまったほうが楽だよ
ニヤ

ね？
ひっ!?
いっいやだ！離せえ!!
ククク…無駄無駄
誰もこんな所に来やしないよ
おい

ふ…
藤村君!?
?
?
どうしてここに…
おいおい藤村ずいぶんじゃないか－

こんな事して
どうなるか分かって
いるんだろうな…
僕が訴えれば
豚箱入りは
免れないぞ
今なら見逃して
やるから
大人しく…
好きにしろ
え？
ぐえっ!?

豚箱でもどこでも行ってやるよ
ただ
落とし前はつけてもらうぞ

僕の大切な人を
こんな目に
あわせたんだ
ドキッ
お前の悪行も
全部晒して
僕と道連れに
してやる
そして二度と
こんな気を
起こさないよう
グッ
徹底的に
痛めつけさせて
もらう
わ、わかった!
橘からは
手を引く!

そんなデメリットを抱えてまで
その女に拘る必要も無いからな
ス・・・
お前も今回の事は口外するな
その女にとって不都合な事を晒されたくなかったらな
ギリッ
ポン
お前っ・・・!
ふん・・・
先輩・・・
ファサ・・・

遅くなって
すみません…
大丈夫…では
ないですよね…
ス…
ううん！何とか…
でもどうしてここに？
実は保健室から
二人一緒に
歩いているのを
見かけまして…
最初は別の
特訓パートナーが
見つかったのかも
と思い
追おうか
悩んだんですが
なんていうか
その…

先輩が他の男と二人でいると思うと
いてもたってもいられず…
ドキ…
でも悩まずもっと早く来てれば…すみません…
ペコッ
そ、そんな！謝らないで！
私は嬉しかったよ
ギュッ

君が来てくれて嬉しかった
君に来て欲しかった
それが私の本心だよ
先輩…
…
こないだの
「最後まで」って言葉
！
あの時は
なし崩しみたいになっちゃったけど…

あれだって私の本心だよ？
ギュッ
え…！えっと…それは…
ねえ藤村君
君はどうしたい？

今度は
なし崩しじゃないよ…?
はえ
ゆさ
ゆさ
覚えてて…ッ

第15話
ねえ…答えて…?
藤村君…
…
僕は…

同じ剣道をする身として
ずっと先輩を尊敬していました
そして
大会出
とても遠い存在でもありました
だから嬉しかったんです

あの日
「あの件」で先輩の秘密を知って…近づけて…
形はまあアレでしたが…
あはは…
それでも僕は嬉しかった
じゃないとあの状況から特訓に付き合ったりしませんよ
うっううう…

それから――
特訓という大義名分を得て先輩の内面を知り
どんどん貴方に惹かれていきました…でもそれと同時に
その大義名分を失うのが怖くもなりました
！
「それ」を失ってしまうと先輩の隣には居られなくなる気がして…
そ、そんな訳…！

でも
そんな事ももうどうでもいいんです
特訓なんかなくても先輩の隣に居たい…!
ギゅっ…
好きです
僕はもっと貴方に触れたい

藤村君…!
ギュッ
嬉しい…
私ももっと君に触れて欲しい…!
ん…

もじ…
は、恥ずかしいから
あんまり見ないでね…？
ゴク。。。
それは…無理かもしれません
…

ビクッ
あ…
ムギュ
あっ
先輩がこんな姿で目の前に居るんです
いつまで自分を抑えられるか…

んっ…!!
んっ
あ
ビクッ
ビッ
チュク…
下も…
あっ!?

あっ
こっち…見ないで

ヘンに…なっちゃ…
変じゃないです…すごく可愛いですよ

あっっ!
ハァ
ハァ
はぁ
はぁっ
あ…
大きくなってる…

藤村君
座って
ぐいっ
え、えと
これで良いですか？
うん
大丈夫
じっと
しててね
ス…
今度は
私が――
ドキ
ドキ

え
おっき…!?
だ、大丈夫ですか…？
あまり無茶は…
だ、大丈夫！
ドキ
ドキ

かぷッ
うわっ!?
せ 先輩!?
ちょっ
ガシッ
んう!?
ケホッ ケホッ!
す、すみません いきなり咥えられると 思わなくて…

こ、こうすると
ケホッ
喜んでくれるかと思ったんだけど…
違った…?
…!!
あの…気持ち良すぎただけで…嬉しかったです…
ほんと!?
じゃ…じゃあ改めて…
ハァ
ドキ
ドキ
ハァ
ん…

うあっ

ううう…
藤村君…これ…
思った以上に
恥ずかし…
これが
先輩の…
ひゃあん!?

まっ
あせっ
やっぱりそんなとこきたな…
すごく綺麗ですよ
あっ
ビクッ
ちょ
ビクッ
あっ
なめれな
びくっ
だっ

だめっ
ビクッ
先輩

もう…我慢できそうにありません
わっ
良いですか?
うん
きて…

ズププッ
あっ
あっあっ
痛くないですか？
う、うん
ちょっと痛いけど
それ以上に
幸せだから…
遠慮しないで
先輩…！
一気に
いきます

んっ
全部入りました…大丈夫…ですか
ハァ
ハァ
く…苦しい…けど

ギュッて
してくれたら
がんばれるかも
ドキッ
先輩が望むなら
いくらでも
ギュッ
あ
あ…
藤村君の匂いで
いっぱい…
藤村君…
動いていいよ

わかりました
少しずつ…
ひうっ

あっ
あ…
だんだん気持ちよく…
ちょっと失礼します
きゃっ
こっちのほうがもっと近づけると思ったんですが
どうですか？
はぁ
はぁ
う…わ…
さっきよりもっと近くて匂いで一杯に…！

意識飛んじゃいそう…
はぁ
はぁ
はーっ
はーっ
う、うん
良い感じかも…
よかったです
あっ！
あ
パンッ
パンッ

ズッ
ズッ
んっ!?
藤村君…
そこ…だめ…
ここですか?
ひゃあう!
ビクッ
スプッ
だっだめ!!

そ…そこ
声…でちゃう
ドッ
ドッ
からっ
いいじゃないですか
あんっ
ビクッ
僕だけしか聴けない先輩のかわいい声
あ…
ブル
ブル
あ…

もっと聴かせて下さい
あっ!?
だっ
これっ
きちゃう!
きちゃうっ!
っ僕もっ

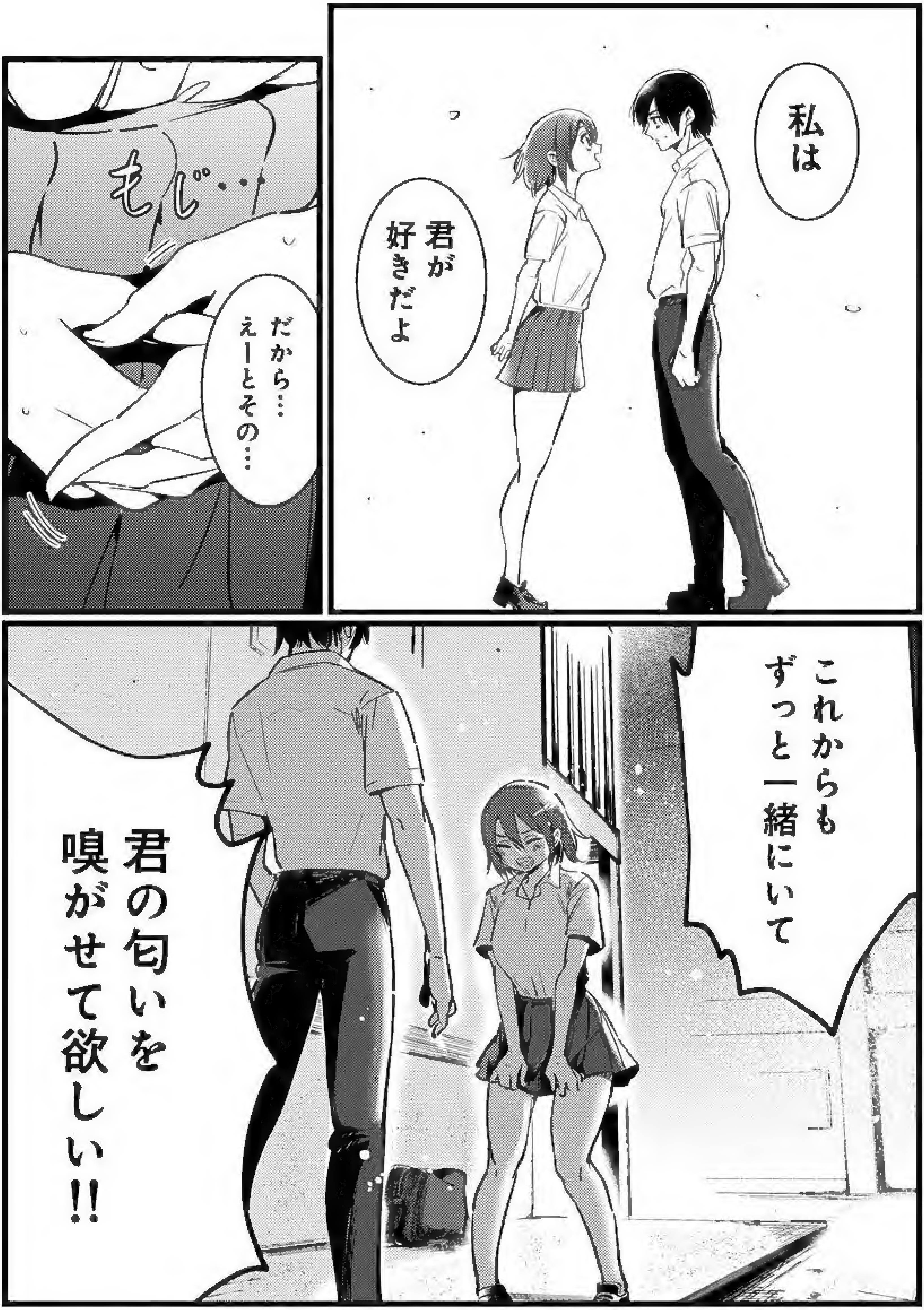
あっ!?
えへへ…
しちゃったね
最後まで…
先輩…
はぁ
はぁ

僕…今すごく幸せです…
へへ…私も…
──と
ちょっと早く来すぎたかな
あれから数ヶ月
まあのんびり待っとくか
ザッ
先輩の戦いは終わった
男性恐怖症は無事完治！…とまでは行かなかったけど
僕と定期的に触れ合う事

そして僕の匂いを感じる物を身につける事で
徐々に症状は改善
ついには宿敵を破り——
見事全国で3位の成績を収めた
そして今日
藤村君！

ごめんね
お待たせして
先輩!
全然待ってませんよ今ー
ううん
待って貰ったよ
僕は先輩に呼ばれて
この部室棟裏まで
来ている
あの日から
あの日
君が勇気を出して
想いを伝えて
くれたのに
大会に集中したい
という私の我儘で
君を待たせてしまった
今日
答えを
貰えるんですか?

コクッ
うん！
と、その前に目を閉じて少し屈んでくれる？
？はい
んっ!?
なっ!? せ、先輩!?
藤村君


私は
君が好きだよ
もじ…
だから…えーとその…
これからもずっと一緒にいて
君の匂いを嗅がせて欲しい!!

プフっ
なっ！
なぜ笑う!?
いやぁ…実に先輩らしいなと
絶対いい意味じゃないよね!? それ！
ふふっ
ずーん
まあ冗談はこれくらいで…
先輩
ザッ

ポン
僕も貴方が大好きです
こんな匂いでよければいくらでもどうぞ
うんっ！
ずっとずっとよろしくね…！
—おわり—

橘さんは嗅ぐわしい

単行本版　第3巻

著者：肉丸

©肉丸/ビーグリー 2021

この物語はフィクションです。
実在の人物・地名・団体・事件等とは一切関係ありません。